

## 名誉総裁 年頭挨拶



### 新年あけましておめでとうございます

本年も、全国の救難所員の皆様が、  
海上における、人命、船舶の救済に力を尽くし、  
海上産業の発展と海上交通の安全確保に  
寄与されますとともに、  
国民の皆様から益々信頼され、  
発展を遂げられますことを願っております。

令和2年1月1日  
公益社団法人 日本水難救済会  
名誉総裁 憲仁親王妃久子

## 年頭挨拶

令和初めての年頭にあたり  
謹んで新年の御挨拶を  
申し上げます。



公益社団法人日本水難救済会におかれましては、  
明治22年11月に創設され、130年の歴史の中で19  
万7千人を超える尊い人命と4万隻を超える船舶を救  
助するなど、輝かしい伝統と実績を築き上げてこれ  
ました。

また、洋上救急事業においては、昭和60年に制度  
が発足して以来、950人を超える傷病者に対応をさ  
れ、国内外から高い評価を得られております。

これらの実績は、尊い人命の救助のため、生業があ  
る中で昼夜を問わず献身的に活動される約5万1千  
人の全国各地の救難所員の方々、洋上における傷病  
者への緊急の医療処置活動を行っていただいている  
協力医療機関の医師・看護師の方々をはじめ、公益  
社団法人日本水難救済会の事業の推進に協力され  
ている関係団体、関係者の皆様のたゆまぬ努力の賜  
物であり、心から敬意を表すとともに、これらの活動に  
感謝申し上げます。

近年、台風や大雨による自然災害の被害が激甚化  
してきているところ、こうした自然災害や海難救助に  
対応するため海上保安庁では、巡視船艇・航空機の整  
備や高機能化を進めるとともに、「救急員制度」を創設  
し、消防の救急隊員と同様の応急処置ができる職員  
の配置を進めております。また、聴覚や発話に障がい  
を持つ方を対象に、インターネットを使用した緊急時の  
通報サービス「NET118」の運用を開始したところで  
あり、国民の皆様が海で安全に安心して過ごせるよう

に、救助技能の向上や、救助・救急体制の充実強化  
に鋭意取り組んでおります。

しかしながら、我が国の沿岸域は広大であり、全国  
各地で発生する海難事故へ迅速に対応するには、公  
的救助機関の勢力のみでは十分とは言えず、民間救  
助組織との連携が必要不可欠であります。特に地域  
に根ざし、地理的環境を熟知する全国各地の水難救  
済会の皆様の活動は、地域からも大きな期待が寄せ  
られているところであり、先般も地方水難救済会が県  
と災害時における船舶による物資の輸送等に関する  
協定を締結され、非常に心強く感じております。

海上保安庁といたしましても、水難救済会の皆様の  
活動に対し、可能な限りの支援をさせていただくと  
ともに、海上における安全・安心に万全を期していく所存  
ですので、今後とも、緊密な連携につきまして、宜しくお  
願い申し上げます。

いよいよ、本年は、2020年東京オリンピック・パラリ  
ンピック競技大会が開催されます。日本全国が活気で  
満ち溢れる年になることを祈念するとともに、日夜、水  
難救済事業や洋上救急事業等に御尽力されている  
全国各地の関係者皆様の御健勝と公益社団法人日  
本水難救済会の益々の御発展を祈念いたしまして、  
私の新年の挨拶とさせていただきます。

令和2年1月1日

海上保安庁長官 いわ なみ 岩並 しゅう いち 秀一



# 年 頭 挨拶



令和2年の年頭にあたり  
海上の安全と安心のために  
皆様のご活躍を祈念申し上げます。

公益社団法人 日本水難救済会  
会長 **相原 力**



令和2年の年頭にあたり、全国の地方水難救済会をはじめ各地の救難所・支所の救難所員とその活動を支えておられるご家族の皆様、洋上救急や青い羽根募金活動に携わっていただいている皆様に、謹んで新年のご挨拶申し上げます。

全国の救難所員等の皆様におかれましては、昼夜を問わず海難救助出動等にご尽力をいただいております。関係者の皆様に心から敬意を表します。

海を現場とする海難救助活動は荒天下あるいは夜間での作業を余儀なくされ、救助活動にあたる救難所員の方々に危険が迫ることが多く、そのご苦労は大変なことと思います。

日本水難救済会は明治22年大日本帝国水難救済会として創設以来、昨年11月に130周年を迎えることができました。創設以来、明治、大正、昭和、平成そして令和と長い歴史の間、救難所員の皆様のご活躍により、累計197,574人の尊い人命を救助してきた実績を誇っており、昨年も、338件の海難に対応し、388名、133隻の船舶を救助し、沿岸における海難救助に多大な成果を上げることができました。

また、昨年6月11日に開催された名誉総裁表彰式典におきまして、平成30年8月26日、兵庫県美方郡所在の余部埼において救命胴衣着用の釣り人1名が高波にさらわれ海中転落した海難救助事案において、救助船（漁船）の船長（救助員）と乗組員（協力者）の計2名が名誉総裁表彰を受章されました。

この事案では、付近海上で操業中の2名乗り組みの救助船が救助要請を受けるや直ちに現場に急行し、暗礁や岩礁が点在し、台風の影響を受けて大きな波が打ち寄せ、自船が岩礁に乗り上げる恐れがある中、

救助船を巧みな操船により陸岸に接近させ、救助員の指示により乗組員が漁業に使用するアバ（浮子）にロープを組み合わせて投げ込み、海中転落者を救助したもので、これも偏に、人命救助に対する使命感と迅速的確な搜索救助活動の賜物であり、深く敬意を表するものです。

洋上救急につきましては、昭和60年10月に洋上救急制度創設以来、出動累計927件となっており、昨年も25件に出動しております。

洋上救急制度は海上を活動の場とする船員やそのご家族の安心をもたらすものとして、関係の皆様からも高く評価されております。関係の皆様方に御礼申し上げますとともに、今後とも一層の充実を図って参る所存でございますので、更なるご支援をよろしくお願いいたします。

青い羽根募金につきましては、昨年も海上保安庁をはじめ国土交通省、消防庁、水産庁、防衛省などの国の機関のほか、各種企業や海洋少年団などのご協力をいただき、青い羽根募金活動はもとより、青い羽根募金支援自動販売機の設置箇所を増にも取り組んで頂きましたことにより、多大な成果がございました。関係の皆様方に御礼申し上げますとともに、更なる拡大を期待しておりますので皆様のご協力をよろしくお願いいたします。日本水難救済会は、全国約51,000人のボランティア救助員の活動の支援並びに洋上救急等につきまして、今後も的確な運営を推進していく所存でございますので、本年もよろしくお願いいたします。

年頭から厳しい環境の中、全国各地で活動している救難所員をはじめ洋上救急に携わっている方々及び関係の皆様のご健勝と益々のご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



金刀比羅宮

本年もどうぞよろしくお願いたします。

明治22年11月3日に讃岐の金刀比羅宮において「大日本帝国水難救済会」の開会式が挙行され今日の日本水難救済会の礎が築かれて以来、令和元年11月で130周年を迎えることができました。

これもひとえに日頃から昼夜を分かたず、沿岸海域での水難救済活動を実施されている全国の地方水難救済会の皆様、遥か洋上で救急医療活動に献身的に勤しんでおられる洋上救急医療機関の皆様並びに国や地方自治体の関係機関及び海事・漁業等の関係団体の皆様のご支援とご指導の賜物と心より感謝しております。

公益社団法人 日本水難救済会  
理事長 **菊井 大蔵**  
常務理事 **加賀谷 尚之**  
ほか **職員一同**



上段左から 榎本第二事業部長代理、森経理部長、木下総務部長、廣岡経理部員、中山第三事業部員、矢島総務部員  
下段左から 鈴木第三事業部長、加賀谷常務理事、菊井理事長、戸田第一事業部長